

2017年6月16日

株式会社あいおいニッセイ同和自動車研究所

衝突実験 15km/h10° 40%オフセット前面衝突の紹介

(3/13付で紹介した、3.実験の種類 (1)⇒ ① ⇒ 15km/h10° 40%オフセット前面衝突)

1. 弊社での実験方法

RCAR^{※1}の試験方法に準じており、運転席にダミーを乗せた実験車両を、時速15km/hでコンクリートバリアに取り付けたオフセットバリアを、市場で起こり得る事故に近い状態を模擬する為に10°傾け当該車両と40%ラップで衝突させます。

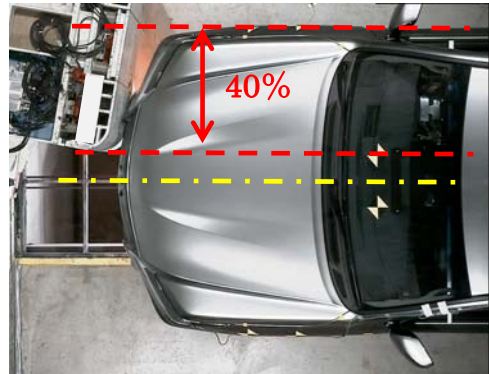
2. 目的

フルラップ正突同様に耐損傷性、耐修理性を評価しており、高速度カメラの映像、車体の三次元計測、車両に取り付けた加速度計や荷重計の結果から、損傷範囲、損傷部品、修理方法、交換方法を調査して修理費見積を算出しています。

(ご参考)

自動車アセスメントでは、バリア前面にハニカム(衝撃吸収体)を取り付け64km/hで運転席側の一部を前面衝突させ、そのときのダミー頭部、頸部、胸部、腹部、下肢部に受けた衝撃を乗員保護性能の度合い5段階で評価します。車体の一部しか衝撃を受けないため、ダミーへの衝撃はフルラップ前面衝突に比べて弱いですが、車体変形が大きく客室の強度を評価するのに適しています。

(出典:独立行政法人 自動車事故対策機構のホームページ)



※1 Research Council for Automobile Repairs

・・・自動車の損傷性・修理性を研究している国際組織。

欧州、欧米、アジア島20カ国の中から 25 センターが参加。